

航空利用の概況

長崎空港利用者数の推移

(単位:人)

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
国 内 線	2,645,607	2,769,292	2,878,834	3,001,915	2,906,428
国際(定期)線	29,045	32,692	72,751	39,382	35,003
国際チャーター便	2,373	10,058	3,301	10,134	430
乳 幼 児	50,056	51,012	53,811	56,187	54,858
計	2,727,081	2,863,054	3,008,697	3,107,618	2,996,719

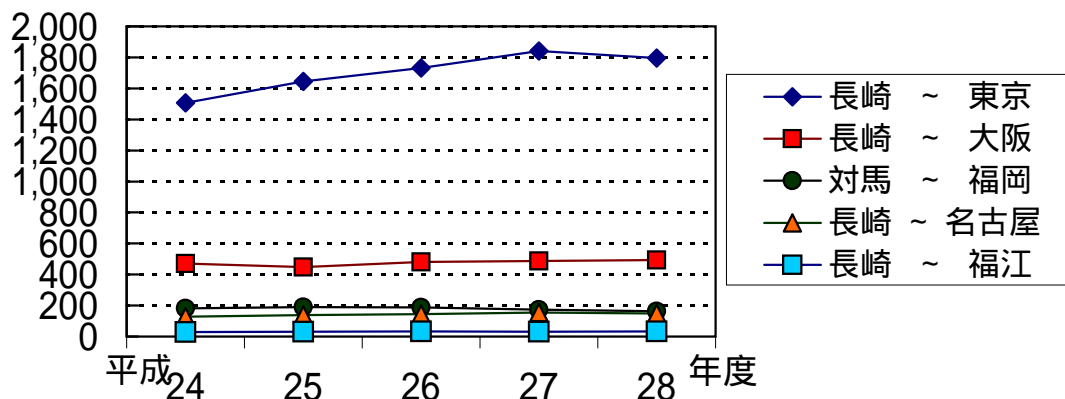
主要路線利用者数の推移

(単位:人)

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
長 崎 ~ 東 京	1,506,327	1,646,025	1,732,597	1,841,370	1,796,097
長 崎 ~ 大 阪	470,513	448,273	481,429	486,135	493,237
対 馬 ~ 福 岡	182,226	190,346	187,813	173,591	164,021
長 崎 ~ 名 古 屋	127,983	138,930	144,555	155,208	149,442
長 崎 ~ 福 江	28,834	31,452	32,260	30,466	32,552

注) 路線別利用者数に乳幼児は含まない。

(千人) 主要路線利用者数の推移



本県における航空の歴史は、昭和35年4月、大村空港を国管理空港(旧第二種空港)として供用開始したことに始まり、昭和50年には世界初の海上空港「長崎空港」として生まれ変わり、昭和55年には滑走路が2,500mから3,000mに延長された。県内には長崎空港のほか、五島つばき空港、壱岐空港、対馬やまねこ空港の4空港に定期便が就航しており、全国の主要都市を始め本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京、大阪(伊丹、神戸、関西)、名古屋(中部)、沖縄など9路線37便、国際線は上海・ソウル(仁川)線の2路線週5便となっている。利用者数は平成28年度実績で2,997千人<内訳:国内線(チャーター便含む)2,907千人、国際線(チャーター便含む)35千人、乳幼児55千人>であった。

また、離島の空港は、五島つばき空港と対馬やまねこ空港は長崎と福岡、壱岐空港は長崎と結ばれており、平成28年度の利用者数は391千人(乳幼児は含まない)で、生活路線としての役割を果たしている。

路線数及び便数は平成29年12月1日現在の数字。

(県新幹線・総合交通対策課)